



## 宮司プレス 八十八号

彦島八幡宮 宮司 ニュース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 平成二十五年十月十日

◇宮司の柴田です。 八月まで、八十七か月連続で毎月発行していた宮司プレス、八十八カ月目にして、志(こころざし)なけばで、連続発行が、途絶えることとなってしまいました。 九月号は休刊、お休みということで、これもひとえに私の不徳の致すところでございまして、大失敗大失態であります。 「今日の事は明日に延ばすな」という格言(かくげん)がございしますが、これは、私に向けられているのではないかと思えますね。 「今月の事は来月に延ばすな」と言い換(か)えてですね、戒(いまし)めなければなりませんね。 今号も、猛省をしながらの編集発行です。 しかしながら、「成功」の反対語は、「失敗」ではありませんで、「何もしないこと」であります。 したがって、起死回生(きしかいせい)の名誉挽回(めいよばんかい)をするためには、今月は、なんとか二回発行しなければなりません。 そうすれば、毎月発行している。ペースだけは、維持できるのです。 みなさま、お待たせしました。 「宮司プレス第八十八号」の発行です。 ◇十月に入りましても、夏日が続く、昨日、新

潟県では、十月の史上最高気温を観測したようですね。 海水温が上昇したことにより、台風が発生が、すでに、昨年を上回っていますし、過日の台風二十四号では、警報も発令され緊張した夜を過ごしました。 列島の天気が大荒れですよ。 関東などでの竜巻の被害が相次ぎ、首都圏や名古屋、さらには京都でも局地的な豪雨をもたらしました。 記録的な酷暑をもたらした気象の変調は、今もなお続いています。 酷暑や竜巻、豪雨を引き起こした共通の要因は、太平洋西部や日本海の海面温度が平年よりかなり高いためでそうです。 「極端気象」が現実になってきたのでしょうか。 気象災害には、新たな知識と心構えで備えなければなりません。 高性能レーダーを増やしたり、家屋の浸水を防ぐ地下貯水槽を建設したりというハード面の整備のみならず、情報伝達などのソフト面の対策も必要ですよ。 そのハード面、ソフト面は、「公助(こうじょ)」、国や県市といった公共の援助が必要ですが、「自助(じじょ)」、自分のことは自分で守る、「助けられる人から助ける人へ」という備えも必要です。 さらに、

「向(こう)三軒両隣」「相互扶助」「相互規制」という、運命共同体としての地域社会を産み出していく、「共助(きょうじょ)」が、とても重要になってくるのではないのでしょうか。 アニメ監督の引退を表明された宮崎駿監督ですが、東日本大震災の発生から間(ま)もない平成二十三年三月二十八日、その日は、映画「コクリコ坂から」の主題歌発表会見に登壇され、次のように述べられました。 「今も埋葬できないまま、がれきに埋もれた多くの人を抱える国で、原子力発電所の事故で国土の一部を失いつつある事態の中で、アニメーションを作っている自覚を持っている。」、言葉がときおり涙で途切れたそうです。 さらに、続けられ、「私たちの島は繰り返して地震と火山と台風と津波に襲(おそ)われてきた。 それでももう一度、より美しく努力をする甲斐(かい)のある島。 絶望する必要はない。」としめくくられました。 我々が、忘れてはならない大自然の脅威(きょうゐ)に(きょゐ)に対する畏敬(いけい)と心構えを述べられたのではないのでしょうか。 ◇「わがくには 神のすまなり 神まつる 昔(むかし)のてぶり わするなよゆめ」 これは、明治天皇様が、明治四十三年にお詠(よ)みになられた御製(ぎよせい)です。 十月は、神無月(かみなづき)と言われますが、「無(な)」は、現代語の「の」という古

語(ことば)でありますから、まさに、「神の月」「神まつる月」だと私は考えています。

今月は、宮司を兼ねている六連島八幡宮を皮切りに、田の首八幡宮、さらには、本務である当宮の例祭と続きます。襟を正して祭祀(さいし)の厳修につとめてまいります。

◇建武(けんむ)の中興(ちゆうこう)の英主(えいしゅ)で、第九十六代後醍醐天皇(ごたいごてんのう)は、

「みな人のこころもみがけ 千早ぶる  
神のかがみのくもる時なく」

と詠まれています。

「千早ぶる」は、神にかかる枕詞(まくらことば)です。すべての人は、生まれた時には純真赤子(じんせき)「あかき子」でありましたが、それが様々な生活環境によつて色々の色がつきます。この色の中でも変な色はふきとり、本来の純真赤子の心を見失つてはなりません。そのために後醍醐天皇は、神の鏡が曇る時がないように、人も心を磨いて変な色にそめるな、曇らせてはならない、そのような心を持てるようつとめなさいと説いています。そのために必要なのが、神の本来の姿である「清浄(せいじよう)」と「正直」なのです。神様に向き合う、曇りのない鏡を見るわけですから、神の心に照らして反省の念を常に持つことが、自分の心の汚れを毎日、ふきとるようになるので

す。つまり、心の炭酸ガスを吐きすてて、神様の元気を吸うことで神の心に近づき、その神の心で生活できるのです。日々、月々、季節毎の「祭り」は、いわば、呼吸です。そして、この月の年毎の例大祭は、「深呼吸」なのです。 「恵み」に感謝し、神の御加護に報いることができるよう日々研鑽することをお誓いし、真心こめて、全身全霊で御奉仕申し上げたいと思います。

◇過日(かじつ)、神宮さまの内宮さまの遷御の儀を奉拝(ほうはい)させて頂きました。 静寂と淨闇(じようあん)のなか、御正殿から出られた天照大御神様が、目の前を右から左へ數十メートルご移動になり新殿にお入りになるクライマックスという場面、感激感動のあまり、涙が頬を伝ったあの瞬間、生涯消える事のない、かけがえのないもの、センス オブ ワンダーであります。その御恩にも報いなければと思いを新たにしています。 御自愛を祈ります。

◇九月の祭典行事報告

▼月次祭 \*九月一日、十五日

▼若宮神社例祭 \*九月六日

▼福浦金刀比羅宮月次祭 \*九月十日

▼朝粥会 \*九月二十一日

▼貴布祢神社例祭 \*九月二十一日～二十二日

▼観月祭 \*九月二十一日

▼秋季祖霊祭 \*九月二十三日

◇九月の宮司の行事会議等予定、活動報告

▼八幡宮関係団体

◇敬婦全国大会参加見送り\*九月三日

▼山口県神社庁、同下関支部関係

◇支部三役会 \*九月十七日

◇神宮大麻壇頒布推進大会 \*九月十九日

◇臨時役員会 \*九月十九日

◇支部幹事会 \*九月二十日

◇市敬神婦人会茶話会 \*九月二十五日

※乃木神社にて開催

▼西ロータリークラブ

◇例会 \*九月四日、十一日、十八日

▼下関中央倫理法人会モーニングセミナー

\*九月十二日

▼教誨活動 □集合教誨

\*九月九日(女子)

\*九月三十日(男子)

▼その他

◇皇学館大学保護者会 \*九月七日

◇下関消防団彦島分団ポンプ操法大会県大会激励訓練 \*九月十二日

◇広島女学院大学保護者会 \*九月十四日

◇人権擁護委員研修 \*九月十三日

◇人権相談 \*九月十八日

◇リバーズ彦島例会

\*九月十三日、二十八日